

SCB放送局防災ラジオドラマ ワークショップ

崇城大学 SCB放送局

崇城大学SCB放送局とは？

- 地域コミュニティブランド(Social Community Brand : SCB)という地域活性化の理論を用いて、地域活性化やコミュニティビジネスの創発を行う活動を発信しています。
- 崇城大学の学生、教員だけでなく、テレビやラジオの運営や制作に関わるプロ、市民、行政、企業などが参加しています。

崇城大学SCB放送局とは？

- ・熊本市の中心市街地にある「崇城大学SCB放送局新市街スタジオ」を活動の拠点にしています。



防災ラジオドラマワークショップ

- 熊本地震の体験を共有して、
経験を活かすことを目的とした、
ラジオドラマを制作する。

防災ラジオドラマワークショップ

- 防災教育の課題
＞広がりをどう作るか？
- 広がりを作ると…
 - 防災への意識の醸成
 - 活動への新たな参加者獲得

防災ラジオドラマワークショップ

- キーワード 「共感」
- テーマ

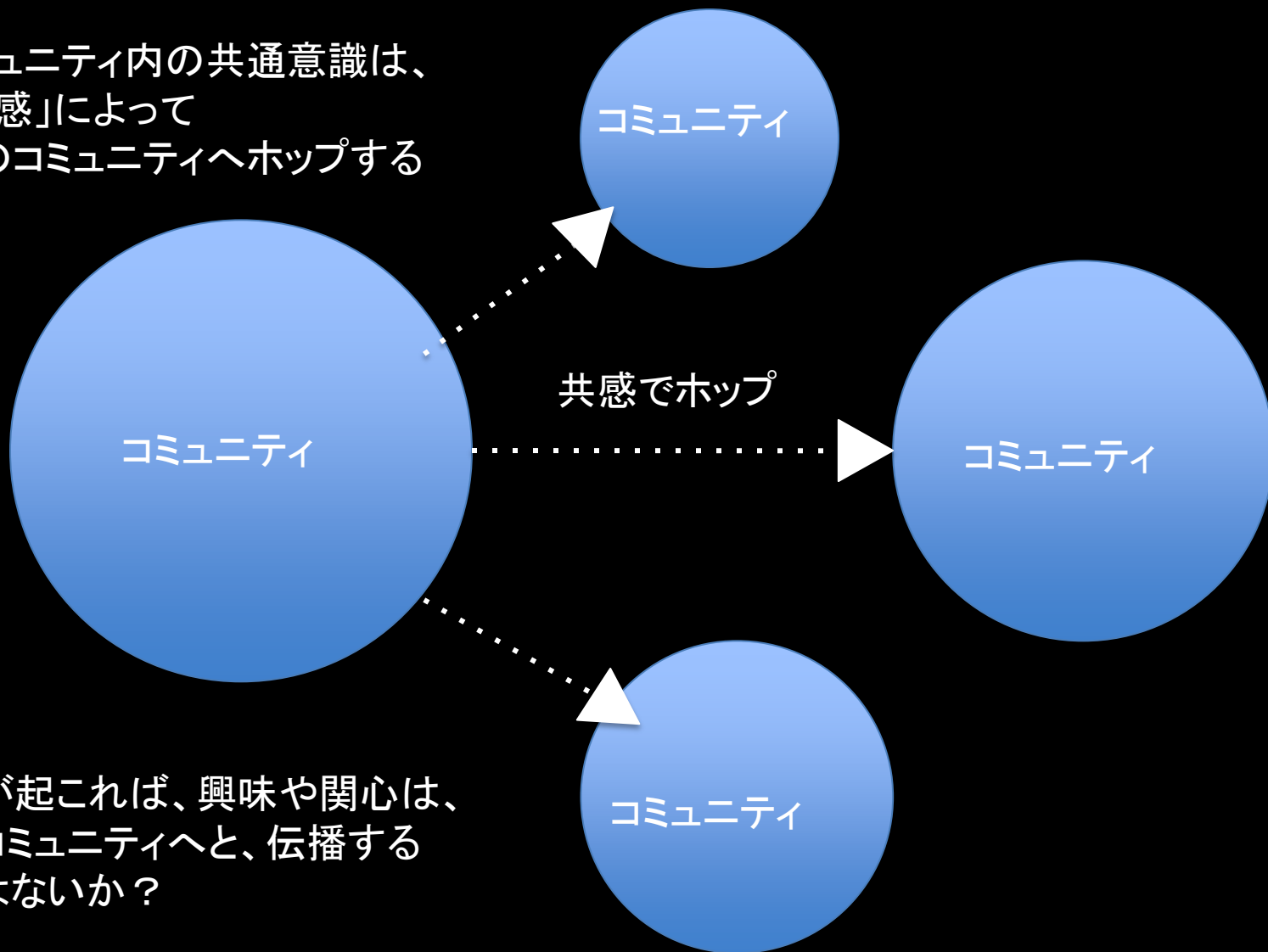
「共感」をどう起こすか？

防災ラジオドラマワークショップ

- ・防災への意識醸成のための戦略を検討。共感をキーワードにどうしたら、防災への意識が醸成されるかを議論した。

防災ラジオドラマワークショップ

コミュニティ内の共通意識は、「共感」によって他のコミュニティへホップする



仮説
共感が起これば、興味や関心は、他のコミュニティへと、伝播するのではないか？



共感はどう作られるか？
防災への意識はどう醸成できるか？



2017.4~5



「震災で行動が変わった人」をターゲットにする

そこで、よかたいネットで被災者支援を行う事務局メンバーの土黒功司さんにヒアリング。

被災地を巡ってインタビューし、本にまとめている澤田佳子さんを紹介してもらおう



2017.6



共感によって、土黒さん自身が、澤田さんの活動に協力していることをお話頂いた。

2017.7



土黒さんに紹介してもらった澤田さんへのヒアリングを実施。



澤田さんは地域で噂されていた活断層と鯰伝説に着目し、各地域に残された鯰伝説の逸話紹介とそこに暮らす人へインタビューを収録した雑誌を発刊していた。

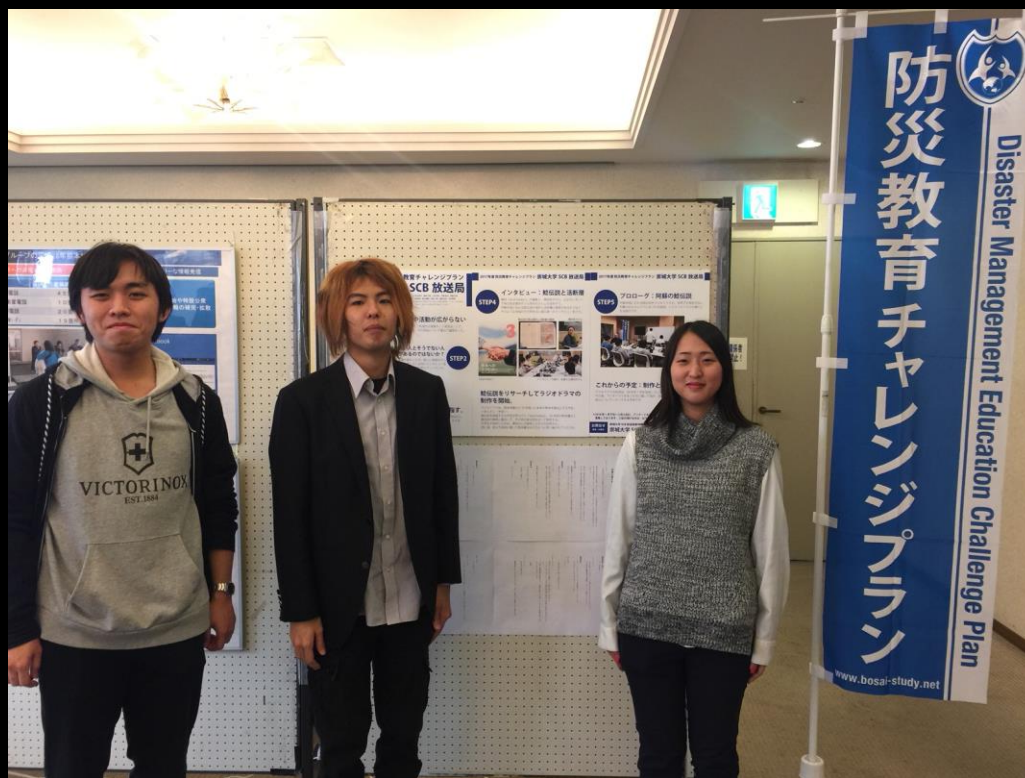
防災ラジオドラマワークショップ

- 共感によって興味や関心を醸成することが出来るのでは？
- 震災によって行動を変えた人をターゲットにしたい
- 土黒さんに影響を与えた澤田さんを主人公にした物語作りを目指した

防災ラジオドラマワークショップ

- 1 前半は阿蘇の鯰伝説
- 2 後半は熊本地震から50年後
澤田さんの活動をベースに
ドラマ化を行う。

情報通信学会100周年記念九州大会



会場での展示の実施。

パネルは会場の都合で小さいものを採用した。

前半の神話部分について、
会場で流し、そのシナリオも
一緒に展示した。

物理的距離と想像性の関係

- インディアナ大学の心理学者による「距離と創性」を元に仮説を立てた。遠い地域のことの方が想像力を刺激するのであれば、
- 熊本を舞台にしたドラマを遠い地域で発信することで防災意識の向上に効果は、地域内よりも高い数値を示す可能性がある。
- 熊本の物語を、SCB放送局が番組を担当しているFM桐生の防災特番で放送を行い、アンケートを実施する。

今後の予定

- 2月最終週 後半部分収録
- 2月末 全体完成
- 3月11日
 - FM桐生が放送する防災特番にて放送を行う。
 - アンケートを実施してドラマを聞くと防災意識へどのように変化が起きるかを検証する
 - 活動のとりまとめ